沢海分館

唄と踊りの祭典……
第一回芸能まつり

ばちさばきも鮮かな北海太鼓まつり

終戦直後、今から約三十年位前、テレビ等もなく娯楽の少なかった農村に一頃盛んに素人演芸会が行われました。其の後テレビ等の普及に依り素人演芸は姿を消し、娯楽はもっぱらテレビに頼る様になりました。

最近、又民謡が全国的に盛んになり、沢海地区においても婦人会を初め、各種団体が民謡に取組んでおります。畑作地帯の沢海では、朝早くから夕方おそく迄働く事が農家の主婦の美徳とされて来ました。

こんなテレビを見ては、寝るの単調な生活の繰返しで果して何の人生ぞと自覚め、何か趣味を持ちたいとの考えから、今爆発的民謡ブームを巻起しております。民謡を通じ趣味を同じくする人が集まり人間を理解し、民謡を理解し、そして民謡を通じて友情の輪を更に広げ、お互に共通した話題が持てる様指導協力するのも分館活動の一つと考えております。

そのような考えから一生懸命に練習に励んでおられる皆さんの民謡を大勢の人に、披露して理解を戴き、併せて地域住民の慰安と親睦を計るため、二月二十五日第一回芸能まつりを開催致しました。

午前十時の開幕で教育委員長、公民館長のご出席を戴き伊藤栄蔵さん、角田ミチエさんご両人の司会で、四十余りの民謡が次々に紹介されました。中には勘太郎月夜唄とか愛染かつらといったオールドファンに懐しいのもあり、舞台と客席が一体となって終始和かな明るい雰囲気で拍手と声援の絶える事がなく、午後三時の亀田甚句のフィナーレ迄、一人席を立つものもない程盛況でした。

これは後日談ですが、今迄非常にわからずやの昔考えの姑に嫁さんが踊を習いに行きたいと言うと、農家の嫁が踊を覚えてどうする、そんな暇があったら畑の草の一本も取った方がよいと言っていた姑も、芸能まつりを見に行って帰って「あねさ、お前も今度踊を習ったらどうだい」と言ったとか。姑が嫁を理解し、嫁と姑が民謡を通して話合う機会を持つ、これも明るい村づくりの一環と思います。

今後共芸能祭に限らず分館活動の内容も充実して、少しでも地域の社会教育に貢献出来れば幸です。（高橋　記）

腰ものび心十九のおこさ節

公民館からの提言

こどもたちにもっと関心を

地域にこども会を作りましょう

こどもたちは今、学校から帰ってくると毎日家庭や屋外でどんな生活をしているのでしょうか。

さまざまな環境のもとにおかれている子どもたちの心と体を健やかに育てるには、どうすればよいかということは大人たちが今、もっと関心を寄せなければならないことです。

そこで今回は、少年団体の育成についてふれてみます。こども会の活動には次のようなものがあります。

一、スポーツレク活動

スポーツや、レク、特にゲームは子どもにとってほんとうに楽しいものです。ルールを守って協力してこそ、楽しく仲よく活動できる体験を味わせたいものです。

二、野外活動

自然に接する機会が思うように得られないので、ハイキング、キャンピング、野外炊事、海水浴等を通して、自然と親しみ、また秩序ある団体生活を通して、心身を鍛え、協力の精神を養います。

三、文化創作活動

みんなと楽しく歌ったり、協力して物を作ったり、実行したりすることによって、新しい知識を吸収し、技能を習得し、表現する力を身につけていきます。具体的には、人形をつくって人形劇をやったり絵をかいたりします。展示会もよいものです。

四、教養活動

本の読み方、壁新聞作り、自然観察等があります。

五、奉仕活動

遊び場や公園など、公共施設の清掃、花壇の手入れ、交通安全運動、植樹運動や助け合い運動など、人間としてお互いに奉仕し合うことの大切なことを体得するよい機会となります。

六、社会的、地域的な行事活動

ひなまつり、七夕祭り、クリスマス等の伝統的な年中行事を始め、国の祝日、地域の伝承的な祭礼とか行事を通して、先人の遺徳をしのびながら、少年団体活動の楽しさを味い、連帯性、協調性、創造性を高めていきます。

いくつか述べましたが、地域の実情に合せたこども会の発足など、PTAを中心にして話合ってみて下さい。

横越中学生の弁論大会から

自殺について思う

三年　石塚　崇

最近の少年、少女の自殺問題についてみなさんはどう思いますか。自殺が起るとまたバカな事をしたやつがいるなんであんなことをしたんだ」。と人ごとだと思って自殺者のことをよく考えず、うわべだけを見て言ってる人には腹が立ちます。自殺した人だけが悪いんじゃない、かえって大部分は自殺者以外のものに原因があると思います。

その原因として、第一に上げられるのは親のしつけです今、がまんできないと言う子が多く、忍耐力というものがかけています。どんなことに対してもがまんができない、自分の思いどうりにしたい、こんな気持が高まると前後のみさかいなく、自殺に至るということになってしまうのです。

第二にテレビの普及にも問題があると思います。今の子は、小さい頃からテレビを見ています。何にをしなくても映像や言葉が目や耳に入ってくるものなのです。そんなことだから考えない子、家族とのつながりがない子ができてしまうのです。そんな子は、家族にも相談できず一人で悩み、思いつめ、そのあげくまたまた自殺につながってしまうのではないかと思います。

また、現在の社会にも原因があるように思います。それは今の受験体制です。「友達をけ落してまで自分が一点でも多く点をとりたい」という気持ち。よきライバルとしていればいいわけですが、そこまでゆくと今度は自分から苦しまなければいけません。

最終的に自殺した人だけが悪いのではありません。一方的に誰が悪いんだなどとは言えないのです。が、しかし、自殺する前に考えてほしいものです。命の尊さというものを。

山本有三の「路傍の石」という本の中で吾一という少年は、友達と自慢話でみえを張って「汽車が来た時、鉄橋のまくらぎにぶらさがっていた」と言ってしまい、実証するため、本当にそれを行いました。運よく汽車が吾一をみつけ止まってくれたので命はとりとめましたが、その時の先生の〝愛川〟愛川吾一というものは、世界中にたった一人しかいないんだ。どれだけ人間が集っても同じ顔の人は、ひとりもいないと同じように愛川吾一というものは、この広い世界に、たったひとりしかいないのだ。人生は死ぬことじゃない。生きることだ。たった一人しかいない自分をたった一度しかない人生を、ほんとうに輝かしださなかったら人間、生まれてきたかいがないじゃないか。

初めに話したように自殺の原因など、この世の中に、どころどころがっているかもしれません。

今の子は、体、心とともに弱くなっているために、より自分自身に負けやすいようです。楽のように進むな。苦しんだ方がいい。自分に負けてはいけないのです。だからこそ自分が熱中できるものや何でも話し合える友達を見つけ出し、心を大きく開いて生きて行くことが大切だと思います。

（紙面の都合で一部カットしました。）

絵と色サロン

<評>

横中三年　佐藤　淳子

部分―本文に比べて氏名が貧弱になり過ぎた。書体も本文と同じか柔らかな草書で書くのが一般的。

全体―ふところを大きく開いて書き、字も気持ちも大きくできあがった、素晴しい作品と言える。細かい難点もあるが、気にならない位、スケールの大きな大陸的な作品である。

（横中教諭　青木　英明）

<評>

横中一年　柄沢　成美

部分―仮名の柔らかさがもっとほしかった。氏名は本文が行書なので、行書で書いた方が良い。

総評―全体に気持ちが一貫して良く書けている。欲を言うなら上下の余白の開けぐあいを、上が一なら下は二ぐらい開けないと、作品の重心が下にきて、重くなるので注意してほしい。

（横中教諭　青木　英明）

ママさんコーラス（合唱）に入ってみませんか

左記の要領で、昭和五十四年四月から、ママさんコーラス（女性であれば誰れでも可）をはじめます。

希望者は三月末日まで、公民館へ申込んで下さい。上手下手は関係ありません。歌の好きな方であればどなたでも結構です。

記

○練習日…毎月二～三回程度夜七時半～九時半
○場所…横小体育館
○講師…横小教諭（予定）
○会費…月五〇〇円程度
※こまかいことは、話合いをしてきめたいと思います。

54年度料理教室学級生募集

○開設日…毎週第四日曜日
○場所…横越村公民館
○講師…大谷節子（新津料理学校々長）外
○募集人員…三〇名
○会費…月四〇〇円
申込みは、三月末日まで公民館へ

第16回 俳句作品公募

○句題…（三題通じて六句）
鳳光る、猫の子（子猫）、猫の親、蒲公英
○〆切…四月十日迄
○提出先…横越村公民館

トップ写真の説明

この山茶花は四十年前、亀田市で三十五銭で買ったものでも生活がいそがしくてさっぱり手入ができない。十五年前からようやく本格的に手をかける。百五十鉢余の中で、気にいった一鉢。いつも花の咲くのが楽しみ。